

燃料電池でプロペラを回す実験を行う子どもたち



## 最先端の科学に興味津々

小中学生60人が  
燃料電池の実験

室蘭でセミナー

【室蘭】子どもたちに最先端の科学に触れてもらおう「第2回NEXTセミナー」が2日、室蘭市青少年科学館で開かれ、小中学生約60人が実験を通して燃料電池や圧力などについて学んだ。

日本学術振興会が若手研究者を支援する「最先端・次世代研究開発支援プログラム(NEXTプログラム)」に選ばれた、大阪大の清水克哉教授と東北大の折茂慎一教授が企画し、道内で初めて開催。室蘭工大の准

教授2人も講師を務めた。

折茂教授は水素と酸素で発電する燃料電池を紹介。子どもたちは簡易燃料電池を組み立て、プロペラを回す実験に挑戦した。室蘭市立八丁平小5年の堀優明<sup>ゆか</sup>さんは「水素が電気になってびっくりに地球に優しい電池ですね」と話していた。

清水教授は高い圧力をかけて水を冷やさずに氷を作る実験を披露。「圧力にはものの性質を変える力がある。圧力の世界には、まだ見たこともないものの姿が隠れている」と説明した。

(石丸厚子)